

校長室だより

国立市立国立第七小学校長 森田弘文

平成28年1月19日

NO.22

1月19日の全校朝会より



毎朝、校門にいと子供達はいろいろな物を見つけては様々な報告をしてくれます。先日、とても寒い日に霜をかき集めた子が「校長先生！見つけた」知らせてくれました。そこで、今朝の朝会では霜柱と霜について写真や絵などを使いお話ししましたので、その一部を紹介させていただきます。

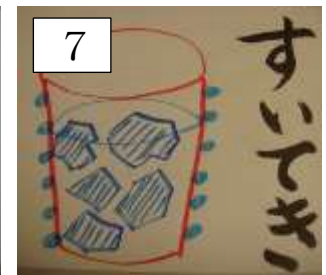
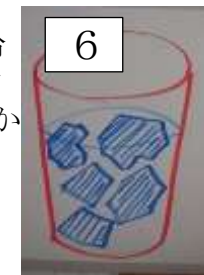
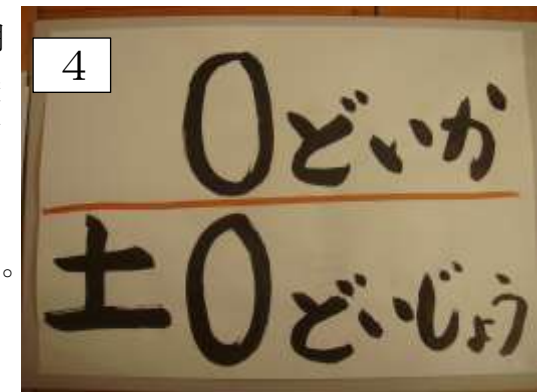
まず、①の写真小提示し、見たことがあるかを聞きました。ほとんどの子が名前を覚えていたようですが、その成因過程は理解していないようなので、②の絵を見せて土の中にはたくさんの水分が含まれていることを伝えました。次にどうして凍るのか、②が③のようになるのかを④の絵を用いて説明しました。つまり、土の中の温度が0度以上で、気温が0度以下の時に霜柱ができるということ！更に霜柱は関東地方のようなローム層がある所程よくその様子が見られ、北海道や沖縄などでは見られないこともつけ加えてお話ししておきました。

次に、⑤の写真を見せ霜についても説明しました。霜も霜柱もよく似ている言葉なので、霜柱は霜がたくさん集まったものと思っている子もいるようなので、霜の成因過程は全く違うということをいろいろな絵でわかりやすくお話ししました。

まず、氷を入れたコップを⑥のように用意し、冷たい水を入れるとどうなるか、知っていることを言ってもらいました。「水滴ができる。」「まわりに細かい粒のようなものがつく。」と言ってくれました。そこで、⑦の水滴は、空気中の水蒸気というものでやかんでお湯を沸かすと出てくる湯気のようなものが冷えてできたものであると伝えました。このような例を示したのは、子供が普段から見慣れている身近な現象の中にこそ、科学の世界の不思議さや面白さがあるからです。そして、そのような事を如何にして知らせ、興味・関心を高めてあげる事がとても大切であると、私は常々考えています。

ここではこの水滴が露であることも伝えようと思いましたが、たくさんの言葉で混乱してはいけないと思い、この言葉は割愛しました。そして、この露が冬になり気温が0度以下になると水滴が氷の結晶のようになり、地面や葉等に見られることを付け加えておきました(⑧)。

朝の光を受けて白く輝く霜をよく見ると、キラキラと光っている様子がとてもきれいであること伝えたい。でも多くの子が霜柱や霜など、自然の作り出す驚きを味わえれば大変嬉しく思います。昨日は大雪でしたが、雪の話もそのうちいつか……。



お話を終えました。一人一人の世界を楽しんでもらえれば大満足です。昨日は大雪でしたが、雪の話もそのうちいつか……。